

蔵書  
散策

## 第七回

「満洲国」建国時の  
政策宣伝ポスター

1932（昭和7）年の7月、建国間もない「満洲国」から、一通の封筒が金沢の第四高等学校図書館宛に送られてきた。縦33.5cm、横23.5cmの茶色の封筒で、中には折畳んだ6枚のポスターと2枚の布告と布告の訳文一枚が入っている。おそらく添状があったと思われるが、残念ながら残されていない。裏側には「満洲國奉天省／彰武縣公署／大道義行／大同元年七月二十日」と書かれている。四高同窓会の会員名簿などにより調査したところ、大道義行氏は昭和2年3月、四高の理科乙類を卒業、九州帝国大学農学部農芸化学科に進学している。昭和5年4月には学士試験に合格、農学士となる。卒業後広島（郷里）で崇徳中学校の教諭をつとめる。その後何時満洲へ渡ったかは不詳だが、恐らく昭和7年3月1日の「満洲国」建国前後であろう。大道氏は母校の図書館へ、「満洲国」建国を語る新鮮な資料として送ったのであろう。「大同」は「満洲国」の元号で元年は西暦1932年にあたる。封筒は中身が検閲できるよう、麻紐で閉じてある。以下これらの資料のうちポスターについて簡単に紹介しよう。

## ● ポスター

彩色刷。54cm×37.2cm。中国、朝鮮、蒙古、日本、満洲の各民族および白系ロシア人と思える人々が満洲国旗を振って、「満洲國」と書かれた城門から出てくる図。上部に文があり、「王道政治」「民族協和」の文字がとくに大きく書かれている。

## ● ポスター

彩色刷。38.8cm×54.3cm。タンボポの咲く草原で、中国人農夫の夫婦が赤ん坊を抱いて憩っている。満洲国旗を持った子供たちが駆けている。空には白雲に乗った天女。その衣装に「王道政治」と書いてある。

## ● ポスター

彩色刷。54.2cm×78cm。（右側）赤枠に「満洲国」。笑っている真っ赤な太陽。立派に稔った高粱と太った豚。夫婦と子ども、赤ん坊の農夫一家。子どもの手に満洲国旗。（左側）赤枠に「軍閥時代」。背景には「赤匪」と書かれた赤い妖怪。涙顔の太陽。「軍閥」「土匪」が「良民」を痛めつけている。

## ● ポスター

彩色刷。53.6cm×38.3cm。左上に「新国家的仁政」。大きなタンクに「仁漿四溢」と書かれてあり、四つの蛇口の下には「尊重民意」「除害救良」「力謀民生」「裕民富国」の文字。

## ● ポスター

彩色刷。51cm×77cm。（右側）2人の軍閥に重石を幾個も乗せられ血を吐いている民衆。重石には「附加損」「公債」「特別税」などと書かれている。（左側）山の端に日の出の太陽がのぞいている。労働者、教育者、農民、商人の四人が楽しい未来を語りながら団欒している。

## ● ポスター

二色刷。79cm×109cm。文字のみのポスター。中央に大きく「我們要求的！」とあり、右側には「財政」、左側には「振興実業方略」として、新国家の政策を掲げてある。

「王道政治」と「民族協和」は、「傀儡国家」、「アウシュビッツ国家」、「アヘン帝国」などと呼ばれる「満洲国」の表向きのスローガンであった。これらのポスターは満洲国の宣伝工作を担当した国務院総務庁情報処で作成されたものであろう。また、同封の布告は、「満洲国」建国を中国人側から準備したとされる「自治指導部（于冲漢部長）」の布告第1号（1931年10月）とその訳文、および大日本帝国軍司令官による鉄道および電線破壊にたいする布告（1932年7月）である。

付言：大道義行氏は「満洲国」のいくつかの県公署の勤務を経て、戦後帰国されたようである。昭和23年の名簿では、広島で農業となっている。

（情報サービス課 梶井重明）



1



2



3



5



4



6